

地域計画

策定年月日	令和7年3月31日
更新年月日	()
目標年度	令和16年度
市町村名 (市町村コード)	山ノ内町 205613
地域名 (地域内農業集落名)	沓野地区 (沓野、渋、横湯、天川、本田、新田、川原)

注:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域計画の区域の状況

区域内の農用地等面積(農業上の利用が行われる農用地等の区域)	67.21 ha
① 農業振興地域のうち農用地区域内の農地面積	47.3 ha
② 田の面積(現況)	39.48 ha
③ 畑の面積(果樹、茶等を含む)	24.18 ha
④ 区域内において、規模縮小などの意向のある農地面積の合計	1.7 ha
⑤ 区域内において、今後農業を担う者が引き受ける意向のある農地面積の合計	ha
(参考)区域内における〇才以上の農業者の農地面積の合計	ha
うち後継者不在の農業者の農地面積の合計	ha
(備考)区域内の遊休農地面積は3.8ha	

- 注1:①については、農業振興地域担当部局と調整の上、記載してください。
 2:②及び③については、農業委員会の農地台帳の面積(現況地目)に基づき記載してください。
 3:④については、規模縮小又は離農の意向のある農地面積を記載してください。
 4:⑤については、区域内に特定することができない場合には、引き受ける意向のあるすべての農地面積を記載の上、備考欄にその旨記載してください。
 5:(参考)の区域内における〇才以上の農業者の農地面積等については、できる限り記載するように努めてください。
 6:「区域内の農用地等面積」に遊休農地が含まれている場合には、備考欄にその面積を記載してください。

(2) 地域農業の現状及び課題

<ul style="list-style-type: none"> ・当地区は、水田地帯で兼業農家が多く、近年は水位センサーや自動給水等、スマート農業化を推進している。しかし、少子高齢化が他地区よりも著しく、担い手となる人材育成や田から畑への高収益作物への転換が課題となる。 ・今後、新たな農地の受け手の確保が必要である。 ・上原、中川原、大柳地区では、ほ場整備が完了している。 ・島崎地籍において基盤整備を進め、高収益作物への転換、将来の担い手確保のための圃場整備とする必要がある。

(3) 地域における農業の将来の在り方(作物の生産や栽培方法については、必須記載事項)

<ul style="list-style-type: none"> ・町の基幹作物である果樹生産への転換を図る。 ・基盤整備を進め、大規模で水稲が持続できる農地を目指し、担い手対策とする。 ・高品質化、高収益化、省労力化に向けた栽培方法(高密植栽培等)の導入を検討する。

2 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用に関する目標

(1) 農用地の効率的かつ総合的な利用に関する方針			
営農組織を中心とした組織体制を構築し、農地の受け手の確保を図り、持続性のある農村地帯を目指す。			
(2) 担い手(効率的かつ安定的な経営を営む者)に対する農用地の集積に関する目標			
現状の集積率	17	%	将来の目標とする集積率 35 %
(3) 農用地の集団化(集約化)に関する目標			

